

描かれた風景

—重文 渡辺華山「四州真景図」と重文 椿山「山海奇賞図」—

令和8年4月11日（土）～6月7日（日）

展示室 特別展示室

重要文化財の「四州真景図」と「山海奇賞図」は、それぞれ渡辺華山と椿山の代表作として知られている。この2作品とともに、館蔵の風景画作品を紹介する。

指定	作者	作品名	制作年	材質	形状	備考
重文	わたなべかざん 渡辺華山	ししゅうしんけいず 四州真景図	文政8(1825)年	紙本着色	卷子	個人蔵 展示期間 4月25日(土)～5月6日(水・振)
重文	つばき ちんざん 椿 椿山	さんかい きしやうず 山海奇賞図	文政10(1827)年	紙本着色	卷子	個人蔵 展示期間 4月25日(土)～5月6日(水・振)
	渡辺華山	ししゅうしんけいず 四州真景図【複製】	原本:文政8(1825)年		卷子	原本:重文 個人蔵 展示期間 4月11日(土)～4月24日(金)、 5月8日(金)～6月7日(日)
	わたなべしょうか 渡辺小華	せんざんぼんすいず 千山万水図	明治時代	紙本着色	掛幅	
	たざきそうん 田崎草雲	てんぼうきゅうじよ 天保九如	明治時代	絹本着色	掛幅	
	田崎草雲	こうざんむじんず 江山無盡図	明治21(1888)年	紙本墨画淡彩	掛幅	
	おくはらせいこ 奥原晴湖	さんろうぼうしゅうず 山楼望秋図	明治33(1900)年	絹本着色	掛幅	
	しらいえんがん 白井烟嵩	きょうへきびせん 峡壁飛泉	昭和23(1948)年	紙本墨画	掛幅	第4回日展入選作
	白井烟嵩	さんうしやうらい 山雨将来	昭和36(1961)年	紙本墨画	掛幅	
	あさみこうじょう 朝見香城	しゅんじゅうざんすいびやうぶ 春秋山水図屏風	昭和時代	絹本金地着色	屏風	
市指	あきさとりのう 秋里籬島	せつづめいしよずえ 摂津名所図会	寛政8(1796)年	紙本墨摺	冊子	田原藩御納戸書籍類のうち
市指	秋里籬島	かわちめいしよずえ 河内名所図会	享和元(1801)年	紙本墨摺	冊子	田原藩御納戸書籍類のうち
市指	秋里籬島	いづみめいしよずえ 和泉名所図会	寛政8(1796)年	紙本墨摺	冊子	田原藩御納戸書籍類のうち
市指	秋里籬島	やまとめいしよずえ 大和名所図会	寛政3(1791)年	紙本墨摺	冊子	田原藩御納戸書籍類のうち

重文＝重要文化財

市指＝田原市指定文化財

表記のないものは当館所蔵

田原市博物館

企画展開催予告

重文「渡辺華山像」修理完成記念
未来へつなぐ、重要文化財渡辺華山関係資料

重要文化財渡辺華山関係資料のうち、椿椿山筆「渡辺華山像」は経年による傷みが進行していました。本格的な解体修理が必要と判断し、国庫補助を受けて、令和5～6年度にかけて、解体修理が行われました。本展では、「渡辺華山像」を修理後初公開するとともに、渡辺華山の優品を紹介します。

2026年
10月10日(土)～12月6日(日)

< 作者紹介 >

渡辺華山 寛政5(1793)年～天保12(1841)年

渡辺定通の長男として、江戸に生まれました。はじめ平山文鏡に師事し、白川芝山、金子金陵、谷文晁らに絵を習います。華山は写実的な描写にこだわりました。特に肖像画を得意とし、西洋の陰影法を巧みに使い、独自の画風を確立しました。また重要文化財「一掃百態図」(当館蔵)など、当時の文化や風俗を伝える資料が残っています。

椿 椿山 享和元(1801)年～嘉永7(1854)年

はじめ金子金陵に師事しました。金陵が亡くなった後、同じく金陵の門下であった渡辺華山の弟子になります。蛮社の獄で華山が逮捕された際は、その救済に奔走しました。華山没後は、華山の家族を献身的に支えました。花鳥画を得意とし、輪郭線を描かない方法で花卉図などを多く制作しました。

渡辺小華 天保6(1835)年～明治20(1887)年

渡辺華山の次男です。小華が7歳の時に、父である華山が亡くなりました。その後、椿椿山の画塾に入門し、花鳥画の技法を習います。22歳の時、兄の立の死後、渡辺家の家督を継ぎ、30歳で田原藩の家老に就きました。明治維新後、内国勸業博覧会への出品や明治宮殿の杉戸絵など制作しました。

田崎草雲 文化12(1815)年～明治31(1898)年

江戸神田で生まれました。親戚の金井烏洲に絵を習い、谷文晁や渡辺華山らに私淑しました。39歳の時に足利藩の絵師として仕えました。明治維新後は足利に居住して画業に専念します。内国勸業博覧会などへ出品し、賞牌を受けました。明治23(1890)年には帝室技芸員に任命されました。

奥原晴湖 天保8(1837)年～大正2(1913)年

古河藩士池田政明の四女として生まれました。本名は池田せつ。枚田水石に絵を学びました。29歳の時、関宿藩奥原家の養女となり江戸に出て、上野に画室を構え「墨吐烟雲楼」と命名し、「晴湖」と号しました。最盛期には300人以上の門人がいたと言われています。その後、上川上村(現在の埼玉県熊谷市)に転居し、画室を「繡水草堂」、「繡仏草堂」などと命名し、作品を発表し続けました。

白井烟嵩 明治27(1894)年～昭和51(1976)年

豊橋市花田町に生まれました。16歳より従兄の白井永川に南画を学びます。松林桂月に師事し、大正9(1920)年、第2回帝展初入選以後、新文展や戦後は日展へ出品しました。昭和49(1974)年、渡辺華山顕彰の功績が認められ、田原町町政功労者として表彰されました。

朝見香城 明治23(1890)年～昭和49(1974)年

兵庫県飾西郡青山(現在の姫路市青山)に生まれました。本名は寅二郎。大正4(1915)年、第9回文展に「陶器窯図」を出品して初入選しました。西山翠嶂に師事し、名古屋を拠点として制作を続けました。昭和25(1950)年、愛知県文化功労章を受け、後進の指導にも尽力しました。